

# 税を追う

取材班から

## いつまで続ける軍拡

防衛省が来年度予算で初

めて「極超音速ミサイル」

を可能にするエンジンの研

究費を要求した。極超音速

とは音速の五倍以上の速度

域を指し、その速さは現代

のミサイル防衛網を突破す

ると言われる。以前に聞い

た自民党国防族議員の話

を思い出した。

「中国はマッハ10、アメ

リカはマッハ20を目指す

聞く。開発されればイー

ス艦の迎撃ミサイルは当

らない。THAAD(米軍

の高精度防衛ミサイル)も

イーリス・アシヨア(地上

配備型迎撃システム)でも

対応できなくなる」

米国、中国、ロシアの軍

事大国で、開発競争が激化

しているという。無人機に

も搭載可能で、議員は「バ

スに乗り遅れるな」と言わ

んばかりにまくしたてた。

頭がくらくらした。軍拡

の野望に、人類はいったい

どこまで膨大な国家予算を

注ぎ、突き進むのか。

米国の無人攻撃機による

誤爆で祖母を失い、けがを

したパキスタンの少女ナビ

ラ・レフマンさん。当時

(2011)から、二年前にもら

ったメッセージがある。

「米国は無人機攻撃でテ

ロ指導者の何人かを殺せた  
かもしれないが、地域のテ  
ロはむしろ増えた。無人攻  
撃機に費やすお金を教育に  
使えば、この地域を楽園に  
変えられるはずだ」

軍拡の果てに起きている  
世界の現実を、攻撃型兵器  
をほしがらる日本の政治家は  
どこまで想像しているのだ  
ろう。問われているのは戦  
争のリアルを想像し、軍拡  
に頼らずに平和を求め続け  
る強い意志だ。

(望月衣塑子)